

平成29年7月12日発行（第18号）

東京歯科大学大学院歯学研究科



大学院だより

大学院修了式

平成29年3月15日に大学院修了式が、122期生卒業証書授与式と合同で行われた。昨年に続き新館血脇記念ホールでの実施となり、堂々とした大学院生の姿は、学生やご父兄にとっても印象深いものとなったことでしょう。修了式では39名の修了者の代表として歯周病学講座の青木栄人大学院生に櫻井薫大学院研究科長から修了証が授与された。その後、新館11階教室に移動し、一人ひとりに修了証が授与され、矢崎秀昭同窓会長から、同窓会長賞が授与された。



修了式を終え充実感で一杯の大学院修了者。矢崎同窓会長および大学院関係者と共に



齋藤淳教務部長の呼名により入場



櫻井大学院研究科長から代表で修了証を授与される青木大学院生

同窓会長賞

矢崎秀昭同窓会長から、同窓会長賞が青木栄人大学院生と北村啓大学院生に授与された。



青木大学院生授与

北村大学院生授与

大学院修了にあたって

青木栄人 大学院4年 (歯周病学講座)

大学院へのあこがれと不安を胸に入学してから4年、そのあこがれと不安は多くの知識と自信へと変わりました。改めてこの4年間を思い返すと、辛かった思い出や苦しかった日々も楽しく充実した日々の一部であったことに気付かされます。

大学院中は生化学講座との共同研究で、*Runx2*ホモ欠損マウス由来iPS細胞の樹立とiPS細胞からの骨芽細胞分化における*RUNX2*の役割についての解明を目指して研究を行って参りました。研究のいろはを一から教えていただいた生化学講座の先生方には、心より感謝しております。私にとって未知の分野の勉強や研究に没頭する日々は、決して楽ではなく、何度も挫折を経験しました。しかし、新しい知識を得ること、新たな結果が得られることは

それまでの失敗や苦しい日々を忘れさせてくれる喜びでもありました。大学院在学中に2度の海外学会を含む多くの学会で発表、参加させていただき、様々な分野の研究者の方々とディスカッションすることができました。自分の研究に対する熱意や自己アピールの方法など学ぶことはたくさんあり、研究内容以外にも多くのことを学びました。さらに、齋藤教授、東教授をはじめとする多くの先生方の熱心なご指導により同窓会長賞をいただくことができました。

こうした充実した4年間を過ごせたのも、多くの指導やアドバイスをいただいた先生方ならびに先輩、研究の手伝いをしてくれた後輩、そして家族の支えがあったおかげであることを実感しております。研究をスムーズに行えるよう環境を整えてくださった口腔科学研究センター、動物舎、ならびに大学院事務局の職員の方々にもRA、学生会などを通して、大変お世話になりました。

歯科医師として新たなステージへと踏み出そうとしています。研究者としても臨床家としてもまだまだ未熟です。今まで以上に努力を惜みず、これからの歯科医学界のリーダーとなれる様、精進していこうと思います。これから先、大きな壁に直面したときも、この4年間で培ってきた経験を活かし前進していきたいと思っています。

最後になりましたが、これまで御指導してくださいました井出学長や櫻井研究科長をはじめとする多くの先生方ならびに職員の皆様に、心から厚く御礼申し上げます。

大学院修了にあたって

北村 啓 大学院4年 (解剖学講座)

大学院4年間を振り返ると多くの貴重な経験ができたと思います。私は4年前、研修医の秋に大学院入学願書を提出しました。当時は「歯科医として何か専門性を持ちたい。」と考えておりましたが、その目標に具体性がなく悩みを抱いておりました。解剖学講座に入局しその悩みを打ち明けたところ、阿部教授より「具体性は修了時に必ず見えてくるものだから、大学院生活で必死に模索しなさい。」と助言をいただいたことを今でも覚えております。

大学院生活は基礎分野であったため研究と教育が主でありました。研究については、ご遺体を用い、筋組織内の血管と神経の役割を形態学的に解明することがテーマでありました。人体という精巧な構造を紐解く作業は大変魅力的であり、研究を進めていくうちにますます没頭していく次第でありました。実験においては数多くの失敗や挫折があり、トライ&エラーを繰り返してやっと乗り越えた壁に一喜一憂しておりました。また、学会発表の場も数多く与えていただき、専門家の先生方と有意義な議論を行えました。研究とは新知見を見つける能動的な学問であり、この経験は自分自身の自主性や計画性を強く成長さ

せてくれたと感じました。教育については、解剖学講義、口腔解剖学講義、またそれらの実習にも参加しておりました。学生の質問に対して的確でわかりやすい回答をすることはとても難しく、正しい知識と順序立てた説明が必要でありました。この経験は臨床、研究をはじめ様々な場面で活かされ、プレゼンテーションをするための基礎、基盤となりました。

この様な4年間があり無事学位を終了する事ができました。また同窓会長賞という名誉ある賞をいただいたのも、阿部教授をはじめとする解剖学講座の先生方による熱心な御指導の賜であります。さらには共に励まし合った大学院同期の先生方や大学院事務の職員の方々にも本当にお世話になりました。

最後になりますが、これまで御指導してくださいました井出学長や櫻井研究科長をはじめとする多くの先生方ならびに職員の皆様に、心から厚く御礼申し上げます。



北村大学院生と青木大学院生

大学院修了者懇親会

大学院修了者の主催で、指導の先生方との懇親会が西棟ラウンジで催された。井出吉信学長、櫻井薫大学院研究科長のほか多くの先生方から大学院修了者の新たな門出に対して、激励のお言葉があった。



平成 29 年度大学院歯学研究科入学式

平成 29 年 4 月 3 日午前 10 時より水道橋校舎本館 13 階第 2 講義室において、平成 29 年度大学院歯学研究科入学式が挙行された。福田謙一学生部長の開式の辞に続き、齋藤淳教務部長による新入生の紹介が行われた。そして、新入生代表の松本高明大学院生（歯科矯正学講座）に井出吉信学長から入学許可証が授与された。続いて井出学長の訓示、櫻井薫大学院研究科長の挨拶の後、新入生を代表して松本大学院生が宣誓し、入学式は終了した。その後、櫻井大学院研究科長から一人ひとりに入学許可証の授与があり、履修に関するオリエンテーションが行われた。



平成 29 年度大学院新入生 学外総合セミナー開催

平成 29 年 5 月 18 日（木）～20 日（土）の 2 泊 3 日で、恒例の新入生学外セミナーが開催された。会場は昨年と同様、富士山を望む「御殿場高原ホテル・時の栖 Hotel Brush up」にて行われた。第 1 日目は、口腔科学研究センターの山口朗客員教授による研究の楽しさについてのボリュームたっぷりの熱い講義があった。第 2 日目は、恒例の英文学術雑誌に関する発表会があり、棚瀬稔貴大学院生、三浦慶奈大学院生、内藤哲大学院生、井坂栄作大学院生の 4 名が優秀賞に選抜された。第 3 日目は、「いい研究とは」という課題についての討論と村松敬教授による研究の取り組み方や研究をする上でのルール等の非常にわかりやすい講義があった。大変充実した 3 日間であった。



英文学術雑誌に関する発表会では、大学院生同士による熱心な討論が交わされた。

大学院新入生学外総合セミナーに参加して

棚瀬稔貴

(小児歯科学講座 大学院1年)

今回私たちが参加した大学院新入生学外総合セミナーでは、事前に課されていた英文学術誌の発表、「いい研究とは」というテーマに対してのグループ討論とグループ発表、そして講義。この3つのスケジュールをこなしました。

英文学術誌の発表では、まだ論文を読むことに不慣れな私たちに論文の読み方を勉強する機会を与え、また各々が選択した論文を発表するので、講座を越えた知識の補填に非常に役に立ちました。テーマに対するグループ討論でも、その論文を読み、ディスカッションすることで確認された研究での良し悪しをお互いに再確認できました。講義ではこれから研究を始める私たちに、研究の楽しさ、辛さ、何を得て、何を失うかということをお教わりしました。これらから総合して今回の大学院新入生学外総合セミナーではこれからの大学院での研究に対する意欲と、真摯に向き合うことでより良い結果にも繋がるということをお学びました。

三浦慶奈

(口腔健康科学講座・摂食嚥下リハビリテーション研究室 大学院1年)

今回の学外セミナーでは、先生方やこれから4年間を共にする皆と、講義やグループディスカッション、懇親会を通して交流することで、とても貴重な2泊3日を過ごすことができました。

まず、先生方のご講義では、先生方が実際に研究で経験した楽しさや、苦勞をしたことに関してもお話をしていただき、今後の研究に対する期待や心構えをすることができました。正直恥ずかしいことに、私が大学院に進みたいと思ったきっかけは、高齢者はもちろん、癌患者さんや小児の患者さんに関してのリハビリについても学びたいといった大まかなものであり、具体的な研究テーマなどは持っていませんでした。しかし、このような私にとって、先生方のお話しを通して心に残ったことは、これからの大学院生活を充実させる上で大切なのはこれからをどう過ごすかであり、またそれは自分自身の考えや行動で決まるといったことでした。このため、これからのモチベーションを高めることができました。

また、4月から始まり慣れない環境の中で真剣に取り組んだスライドの発表では、様々な講座のメンバーで構成されたグループ内での発表ということもあり不安を感じていました。しかし、自分の分野以外にも興味を持って真剣に話を聞き、多くの質問をしている皆の姿を目の当たりにして、年齢や出身大学が異なっても同じ志をもった仲間がこのようにして集まって学べることへの喜びを感じた上に、より良い刺激を受けることができました。

この3日間で学び得たものは、今後の大学院生活においてとても重要となることと思います。また、ここで集まった皆とこの四年間を高めあいながらも、この大学院で学ばせてもらえることへの感謝も忘れずに、より充実した大学院生活を送れるよう努力していきたいと思いました。

内藤哲

(解剖学講座 大学院1年)

先の5月18日から5月20日に御殿場で行われた大学院新入生学外総合セミナーに参加させていただきました。

私は大学院に入学したばかりで、これから大学院での勉強、研究をどのように進めていけば良いのかわからず、不安な気持ちを抱えていました。このような時期に山口客員教授や村松教授による、これまでの研究者としてのご自身の歩みや現在行っている研究内容などを踏まえた講義を拝聴する機会をいただきました。そして、目的意識を持った大学院生活を送る事が大切であるという内容から、研究者として歩む指針を示していただき、大変参考になりました。今後の大学院生活に活かしたいと思えます。

またセミナーでは、各自があらかじめ選んだ英語論文の発表会、グループでの課題に関する議論に関する報告会などが行われました。個人の発表では、スライドをどういう構成にして、どのような説明をするべきかなどに苦心し、プレゼンテーションの難しさを知りました。さらにグループでの発表では、議論した事項が相手に伝わる内容とするために、メンバー皆で意見を出し合い修正作業を行っていきました。これらの経験は、今後学会等での発表の礎になると感じました。

3日間を他の大学院生の仲間と過ごすことにより、普段あまり話す機会のなかった方々と話すことができ、親睦を深めることができました。今回のセミナーは私にとって大変有意義で、今後の大学院生活に活かしていこうと考えております。

井坂栄作

(オーラルメディスン・口腔外科学講座 がんプロフェッショナル大学院2年)

私は現在市川総合病院にて臨床を離れ研究を行っています。本来大学院校外セミナーは1年生が対象とされていますが、私情により、2年生での参加とさせていただきました。このセミナーでは「研究とは」をテーマに行うグループ討議や、英語論文の発表を行いました。中でも英語論文の発表では自分のテーマ（口腔外科）以外にも、矯正や、解剖などたくさん面白い論文を知ることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。インターネット社会の現代では世界中たくさんの論文を検索し、読むことができます。しかしながら、若干ではありますが論文を良く吟味してみると「ここが変だな」と感じる RCT もたくさんあります。そういった中で、今回の英論発表のような主体性を持った論文の吟味が大変重要になってくるのではないかと感じました。研究は楽しいことばかりではなく、辛いこともあります。前述のような粗雑な論文にならないよう、自身の研究に一層努力をしていこうと感じました。このような機会を与えていただき誠にありがとうございました。



「いい研究とは」という課題についてグループ発表と討論

編集後記

今年も 39 名の大学院生が全員学位審査に合格し、立派に巣立って行きました。授与された修了証を手にし、達成感に満ちあふれた笑顔でお互いの検討を讃えていました。指導者の先生方も安堵したことでしょう。また、122 期学生の卒業式に先だって行われた修了式では、学生部長の佐藤 亨教授をはじめ関係各位のきめ細やかなご配慮により、滞りなく式を終了することができました。大学院関係者一同、皆様方に感謝しております。

代わって 37 名の新入大学院生が夢と希望を持って、入学して参りました。美しい富士山を望む御殿場の地で行われた学外セミナーでは、活発な討論が行われました。その熱心な態度は、大変たのしく、これからの彼らが楽しみであります。(福田 記)

